

火性伝達本能 言葉は守護神である

陰陽五行論には、相生論という基本概念がある。互いに生かし合う関係がある、という理論だ。基本的に、木火土金水の五行の質を扱うものである。木 生 火 生 土 生 金 生 水 生 木と循環する。木性は守備本能を司り、自律や自信、慈愛を確立し、仕事や現実のスタートに影響を与える。火性は伝達本能を司り、礼節や言葉使いを確立し、人生の希望や可能性、夢のスタートに影響を与える。土性は引力本能を司り、財力や人脈、愛される事を確立し、現実の今に影響を与える。金性は攻撃本能を司り、現実的な行動や成果結果を確立し、現実のまとめやプライベートに影響を与える。水性は習得本能を司り、品性や聡明さ、精神の一貫性を確立し、人生理念や人間の品格に影響を与える。これらの要素が互いに連鎖し、影響を与えながら、エネルギーが循環しているという概念である。この五行の相生循環を、パワフルに何万回転も行うほど、陽転していくと定義している。陽転とは人生が大きく花開き、一般的な成功(禄分・官分)をしていく事を意味する。従ってこの回転数とエネルギー量が重要になる。大きなエネルギーをパワフルに回転させる程、大きな成果や影響を与え、帝王として君臨していくのである。その観点で五行の相生論は、如何に現実適応していくかにおいて、非常に効果的な示唆を与えてくれる。今月は五行の相生論を中心に、火性、金性、水性に焦点を当てて、特に火性の言葉の選択が、人に与える影響がどれだけ大きいかを考察しよう。

まず、木性守備本能は、仕事および人生における何かのスタートを支配する。しかし回転数が少ない状態では、仕事が上手くいかなかったり、何か新規でスタートするとき、スムーズにいき難いことが多い。具体的には仕事や他者、現実的な何かをスタートするときは、最大限の慈愛をもって尽くしていく、守っていく事を意識することである。しかし、回転数が少なく、力量が無い状態では、それがおぼつかないものだ。力量が無い状態では、他者を慈しむ事よりも、自分の利益や自分の満足度を上げる方を優先したくなるのが常だ。更に木性守備本能は、「オーラを放つ」という要素も含むが、自律しオーラを放つことなど、力量が無い状態では望めない。仕事の可能性や他者との良好な関係性が、大きく開花していくには、まずは利他主義で他者に尽くし、慈しむ事が大前提になると学問では定義しているが、これはエネルギーの回転数と総量で決まる。何度も「相生循環」が行われた結果、具現化できるものになるのだ。

必然的に、その次に循環する、火性伝達本能に着目することになる。具体的には、礼節をわきまえる、長幼の序を意識する、綺麗な言葉使いをすることになる。これは回転数が少なく、力量が無い状態でも実践する事は出来る。この火性伝達本能は、非常に大きな影響を私たちの人生に及ぼしてくる。汚い言葉を使うよりは、綺麗な言葉を使った方が良いというのは、一般常識レベルで、誰もが思う処であろう。しかし、話し方や言葉の選択の特別な訓練を受けていない限り、私たちは慣れ親しんだ言語形態の中で、我流の話し方を形成する。また家庭環境や学校教育、社会地域、時代背景にも、言語形態は大きな影響を受ける。例えば、親や指導者から「他者を信じてはいけない」、「在るがままの自分では愛されない」という言葉を与えられると、その言葉がしみ込んでしまい、その様な現実を見るようになる。これは後の動画で検証できる。または「人生は可能性に満ちている」、「変転変化の中にこそ豊かさがある」という言葉を与えられると、どんな現実を突きつけられても、その世界観を見出していくものだ。だから言葉を選択することは、意識的に改善し

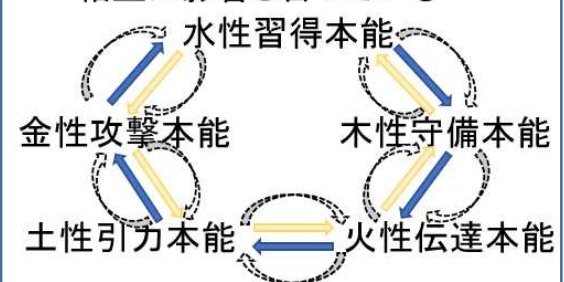
ていかないと、なかなかできないものである。肯定的な言葉や否定的な言葉は、それぞれがエネルギーを持っているので、つまり言霊であるので、その言葉の持つ波動をダイレクトに受け、精神に影響を及ぼすのだ。言葉が精神、つまり「心の在り方」に与える影響は、非常に大きい。

現実のある破壊事象を観て「最悪だ、もう終わった。私には無理だ。」という言葉を選択するか、「こんな程度で済んでよかった。やはり私は守られている。」という言葉を選択するかで、心の状態は大きく違うはずである。前者は悲観的で欠けている状態になり、後者は肯定的で満たされた状態となる。悲観的な汚い言葉を与えている者の元に火 生 土の循環で、他者からの愛情、財力、人脈、人生のチャンスは引き寄せられない。逆に肯定的な綺麗な言葉を与えている者の元に土性要素(つまり財力・人脈・他者から愛され、必要とされる状態)が引き寄せられるのは、簡単に理解できるはずである。どんな言葉を選択しているかで、その者の価値観が分かるし、人生の質が炙り出されるものだ。従って、意識的に言葉の選択をした方が、損得勘定で見ても得をするのだ。言葉がその者の人生観を決めて、その世界観を見させてしまうからだ。先月、お伝えをしたキアラ・セトラの言葉は、正に「魂の叫び」だった。取り繕うことなく、何者かになることなく、ただ在るがままの自分の、魂からの叫びを言葉にしていた。だから他者に共感を与え、感動を創り出すのであろう。人は一瞬で人生が変わってしまうものだ。それは、言葉の与え方の積み重ねで決まるのだ。言葉は他者に共感を作り出し、感動を作り出し、求心力を作り出す。つまり火生土(財力、人脈、人生のチャンス、他者から愛され必要とされる事)は連動している。言葉次第で決まると言っても、過言ではないだろう。先日、ある上場手前の社長と話をしていた時に、こんな会話を交わしたのを覚えている。「仕事の成果や可能性は、言葉の選択基準でできる。運が良い人と運の悪い人は、顔ににじみ出ているし、何よりそれは、言葉の使い方で、運が良いか悪いかが分かってしまう。非常に才能豊かな社員が、ここは踏ん張りどころなのに、「もうダメです」と言ってくる場合がある。だから彼は出世しないんだと感じる。言葉は記憶を作り出す。その言葉の与え方で、人生の記憶が決まる。その記憶が人生の風景を彩っている。つまりどんな言葉を与えているかで、人生の風景が変化していくのだ。私は社長として長い間、社員やお客様と触れる機会があり、そして何より他者を評価する立場にあり、多種多様な人と触れる中で、この価値に気が付いた。」とおっしゃっていた。優秀な経営者は、着眼点が違う。彼は常に、「自分は運がいい。何故だか、いつも上手くいくんだ」という言葉が口癖である。アドバイザーの立場からすると、まあまあの経営危機だと思われるような状況でも、その様な言葉を与え、またその様に現実が見えている様である。そしてその見ている現実を作り出し、ここ数年で上場手前まで組織が成長してきたのだ。選択している「言葉」は、その言葉を積み重ねる事で、その言葉の持つ世界観を現実化する。そしてその成果結果を得ていくのである。これが火生土のサイクルである。図1aのように、一方向への循環だけではなく、各要素が相互に影響し合い補完し合っているのだ。隣接し合う各要素同士が循環し合い、飽和量を超えると次の循環サイクルに移っていくのだ。イメージは掴めるだろうか。

図1 五行(木火土金水)相生論

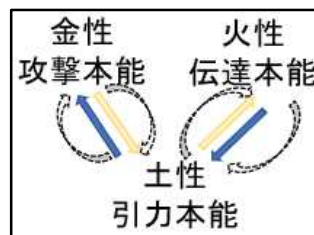


図1a 相互に影響し合っている



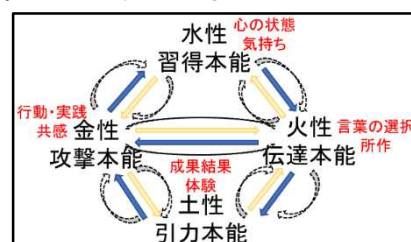
するとその成果結果が、更なる枠を超えた行動や、変転変化を積極的に取り入れる金性攻撃

本能に刺激を与える事になる。この行動変容や行動変革は、人生に画期的な違いをもたらしてくれる。後に解説をするが、行動変革が成果の変化を支配しているからである。今までと同じ行動をしていては、同じ結果しか得られない。次元の高い行動様式を取り入れるからこそ、成果に変化を及ぼせるのだ。つまり、「言葉」と「行動」は「成果結果」を介在して、連動しているのだ。言葉と行動が変化すれば、成果結果が結果的に引き寄せられるのである。ここでのポイントは、気持ちが乗らなくても、行動をする事が大切となる。



言葉を放っただけではダメである。その言葉に伴う「行動」が結果を作るからだ。しかし、善き言葉を選択しても気持ちが付いてくるかは別問題である。従って、気持ちが乗っているかいないかに

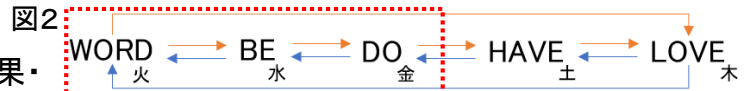
関係なく、具体的な改良された行動を積み重ねる事である。行動する事で、結果的に気持ちが上がってくることがあるからだ。金（行動）→生水（意識、心の在り方）の流れだ。善き言葉を与えて気持ちがすぐに上がる者は、循環サイクルを何度も回している者である。循環サイクルが回り切っていない者は、善き言葉を選択しても、即、気持ちが上がる事は少ない。火→土→金→水の流れで、火性と水性の間には2要素が絡んでいるから、直接的に影響を与えにくいのだ。しかし、循環サイクルが大いに回転している者は、「善き言葉＝心にやる気が出る」という構図は、可能であることを右図に示しておく。そして、今までとは違う次元での行動（仕事の仕方や実生活の過ごし方や他者への共感）を行うことで、金生水の流れで、水性習得本能が刺激を受け、もっと勉強したくなり、物事の本質とは何ぞやと探究しだし、結果的に人生理念が確立されて、心が満たされる。水性習得本能で心が満たされると、更なる行動変革に拍車を掛けたい。その強まった金性が、更に大きな水性を生み、高い次元で、物事の本質に触れ、心が満たされる。その強まった、勢いのある水性が、水生木の流れで、木性守備本能にエネルギーが循環し、自律・オーラを放つ・利他主義からの慈愛を慈しみ、まず他者に尽くすようになれる。自律心が確立され存在に一貫性が出るので、まるでご神木・大木が如く、存在力にオーラが滲み出る。世の中の、心が不安な者を、一心にその求心力で引き付けてしまうようになる。不安な状況や不安な心は、一貫性のある存在に触れると、その不安さが消し去られるので、引き寄せてしまう事になる。そのオーラを放つ、存在力の高まった者が、ひとたび言葉を放つと、大きな影響力・求心力を放ち、善きサイクルが循環していくと、2500年前から帝王に説いているのだ。これが五行の相生論の概略である。非常にシンプルなので、誰にでも実践できるはずだ。



ここまでの内容をまとめると、まず五行の相生論を動かしたければ、綺麗な言葉使いからスタートすればいいのだ。綺麗な言葉使いと綺麗な所作をし、在るがままの自分をさらけ出して想いを分かち合い（火性伝達本能）、その想いを分かち合った結果、批評がやってくる。良い評価もあれば悪い評価もあるだろう。良い人も悪い人も、良い金も悪い金も、良い愛され方も偏った愛され方もするだろう（土性引力本能）。その得た結果から、実践の仕方、行動様式に改良改善を行い、更に実践を積み重ねる。今までとは違う行動様式が、人生に変化をもたらしてくれるからである。大いに実践し、大いに行動をし、他者の心の機微に共感する事で（金性攻撃本能）、金生水の流れで、後から心に変化が起こる。圧倒的な練習量、実践量は心を鍛え、クリアリングしてくれ、善き思考を導いてくれる。限界突破する位の練習量から、結果的にやる気になったり、物事の本質を見極める事が出来る様になる（水性習得本能）。その聡明さ、心の満足度の高さが、如何に現実的な

夢や仕事に仁徳＝慈愛が必要かを認識させてくれる。利己主義よりも利他主義である方が、長期的にみて、結果的に自分の利益に繋がる事が腑に落ちてくる。その境地から生きると、心からまず他者に与え、他者を慈しむ事が仕事の本来在るべき姿であると理解できる。その境地が木性守備本能を輝かせる。結果的に自信がつき、存在感を増し、オーラを放っていく、という相生の循環をしていくのだ。

これを換言すると WORD-BE-DO-HAVE-LOVE という概念で捉えることが出来る。図3の通り、WORD(火性)=言葉、BE(水性)=心の在り方、DO(金性)=現実的な行動、HAVE(土性)=成果結果・



人生体験、LOVE(木性)=利他主義・慈愛、と定義してみよう。五行の相生論 図3 とは多少の順番は違い、私の造語であるが、分かり易い例題であると思うので、

お付き合い頂きたい。図2は5要素の相関関係図である。まず言葉が精神状態に影響を及ぼす。その精神、心の在り方が行動変革を起こし、行動を支配する。具体的な行動が、人生における成果結果に影響を与える。その成果結果が慈愛を生きる土台となるという相関関係図である。つまり「言葉は慈愛である」となる。慈愛とは東方仁徳であり、「仕事の本質」という意味である。陰陽五行論では、仕事の本質は慈愛を尽くす事であり、仕事は金儲けの場所ではないと定義している。ここで着目したいのは、冒頭でも記述した火性伝達本能、水性習得本能、金性攻撃本能である。

WORD	=	言葉
BE	=	心精神
DO	=	行動実践
HAVE	=	成果結果
LOVE	=	慈愛

火性伝達本能は言葉である。言葉であなたは出来ている。図2の関係図が正しいという前提で眺めると、あなたの人生は言葉で出来ているという事になる。あながち間違っていないのではないかと、私は確信している。米国で生まれ育った純粋な日本人は、英語文化圏の影響を受けて、日本人離れした価値観を得る事になるし、逆もまた然りだからだ。言葉が与える影響が大きいのは前述した通りだ。汚い言葉よりは綺麗な言葉を、語彙力が少ないよりは多い方が、人生は彩りで豊かになっていく。その豊かな言葉(WORD)は、精神状態(BE)に影響を与える。汚い言葉を聞いた心はザワザワするし、品性のある言葉を聞いた心は、良い気で満たされる。良い気で満たされた心で行動すると、善き行動になり、悪い言葉からザワザワとした心持ちで行動すると、品の悪い行動に繋がる。その行動レベルが成果結果(HAVE)を作り出す。善き言葉から心が満たされた状態で行動し、その結果を得たのであれば、既に心は満たされているから、自分を満たす必要がない。だからその状態で作り出した成果結果(HAVE)を利他主義でまず他者に与えるという(LOVE)状態を作り出すことが出来る。利他主義で、まず他者に与え、尽くしていく状態が、更なる品格の高い善き言葉を導き、循環していくのだ。ここまでの流れはご理解頂けるだろうか。

ここでは言葉(WORD)、心の在り方(BE)、行動や日常での実践(DO)を着目したい。言葉は何度も記述している通り、品格の高い綺麗な、可能性を見出すような言葉を選択する事である。自他に肯定的な言葉を与えていく事は、結果的に自他の精神状態を健全に保つことが出来る。これはみなさんも周知の事実であり、実体験としてご理解頂けるだろう。しかし、そんなに簡単に言葉だけで心の状態は変わらないよと、脳内会話が起こった方は、言葉の選択が無意識レベルで否定的である証拠である。懐疑的なのだ。だから人生の風景も懐疑的に、否定的に見えてしまうのだ。そしてその肯定的な言葉(WORD)で満たされた心の状態(BE)が、行動や実践(DO)に影響を

与え、支配する。善き行動も悪しき行動も、その土台は、「言葉」と「心の在り方」に帰着するのだ。実践や行動は、業務的レベル、日常生活レベルのものもあるだろう。そして究極の行動、実践はどんなシーンであろうと、他者に共感することである。金性攻撃本能は「他者に対して共感能力を実行する事」と換言してもいいだろう。行動は共感能力であることを、強くお伝えしたい。他者への共感能力が高くないと、求心力を発揮できない。つまり誰もついてきてくれないのだ。一人で何かをやっても所詮、一馬力でしかない。石門星世界が如く、多数の仲間を得る事で、大きな組織力、訴求力をマーケットに与えることが出来る。独りよがりにならない事である。他者に慈しみの念をもって、心の琴線に触れる意識を持つ者が、帝王として君臨するのだ。何度も申し上げるが、「帝王は心配り気配り業である」と古来より帝王学書に定義されているのは、この要素を指摘しているのだ。

肯定的な言葉で善き心の状態を作り、その満たされた肯定的なエネルギーを放つ心の在り方で、他者の心に寄り添い、共感をしながら円滑なコミュニケーションを取る事が、より豊かな成果結果(HAVE)を作り出す。その作り出したものを、私利私欲のためだけにではなく、利他的に他者にまずお尽くしをする、仕事の本質に繋がる慈愛(LOVE)を実践する事で、更なる善き言葉に満たされるという循環システムである。五行の相生論、またはこの造語の循環システムは、多少の表現が違っても、根本的にお伝えしたいことは同じであり、一つである。

「言葉は守護神である」という概念が密教哲理の中に在る。だから密教はご真言を唱える。綺麗な言葉と綺麗な所作が、綺麗な心を作るとしている。これを浄三業と云う。『観ぜよ 一切の法は本性清浄なること 猶し蓮華の游泥に染ぜざるが如し 我れ亦三業清浄なることを獲得す』という観想を阿闍梨は行い、浄三業の印をきり、真言を唱える。『おんそははんばしゆだ さらばたらまそははんばしゆどかん』結界真言の一つである。古来より、どの理論であっても、火性伝達本能が司る、「言葉と所作を綺麗にせよ」と強く説いている。それが人生をより良くしていくための「はじめの一歩」なのだ。その言葉使いや所作が綺麗になったら、心が綺麗になり、綺麗な心で行動をするから現実が向上し、物心共に満たされているから、まずは他者に食わせよ、の利他主義が現実的に実践できるようになるのだ。実践し、行動を積み重ねないと現実是不変だが、その土台が何かをしっかりと理解しておく必要がる。逆説的に表現すると、何のために言葉と所作を綺麗にしないといけないのかの、根底的理由が理解できないと実践しないから、この循環の法則を知っておく必要があるのだ。

ここで、言葉の与え方で人生が大きく変化した、キャリアを積んだある女性のエッセイを紹介したい。

『雪を払う小さな手』

仕事に、疲れ切っていた。

産休明けから、2年が過ぎている。

子どもの成長に合わせるかのように、仕事が増えた。

短縮業務で、早く帰れるからといって、仕事が楽になったわけじゃない。ただ濃縮され、スピードを要求されるだけのことだ。年次が上がった分、休んでいた分、仕事は複雑さを増し、人間関係は難

しくなる。

周囲は温かい目ばかりではない。「女は、いいよな」という、無言の差別もある。得意先には甘える事も出来ず、緊張だけが続いた。

なんとか保っていた、仕事と育児の均衡。それがちょっとしたミスで、決壊した。あっという間に、大きなトラブルになってしまった。

回避する時間がない。頼みの夫も、出張中だ。

どうしよう、、、 どうしよう……。

被害はすぐに、子供に及ぶ。保育園に迎えに行く時間が、ずれ込んだ。なんとか、娘の食事はつくったものの、自分は、ファストフードを頼張って、持ち帰った仕事に取り掛かる。子どもをお風呂に入れ、寝かしつけてから、また仕事。疲労で、身体が錆びそうになった。

そんな日々が続いた。

日々、起きるミスと、トラブルと、その回避。自分の時間など、一分たりともない。

子どもをだっこして、パソコンと、資料と、買い物袋を下げて、マンションまでの道を歩く。

行き交う人の、幸せそうな顔を見て、耐えていた気持ちが、ぐっと、込み上げてきた。

「どうして、どうして、私だけが、こんな目に合うの……」。

見上げた空からは、無常にも雪が落ちてくる。手はすべて、ふさがっている。

「私には、傘をさす自由もない」

みぞれまじりの雪のなか、何もかもが、重たく感じる体を、引きずって歩いた。

「もう、、、限界……」

と、思った瞬間、小さな娘の手が、動いた。

うっすらと目をあけて、私の肩から、襟元についた雪を、払ってくれたのだ。

小さな手を動かして、無心に雪を払ってくれたのだ。

私は、子どもの背中に手をあてた。

温かかった。。。

まだ手のひらで隠れてしまいそうな、小さな背中。私が頑張らなければ、簡単に死んでしまう背中。娘も一所懸命に生きている。そして私のために、雪を払ってくれている。

この夜以降、私は、泣き言をやめた。

最大限の努力をはかり、無駄なことはやめ、言うべきことは、はっきりとすることにした。態度が変わったことに、驚いた人も居る。うとんじた人も居る。でも多くの人が協力的で、一緒に仕事をしている仲間が、どうしても時間がないときは、家の最寄りの駅まで、資料を届けてくれるまでになった。雇用均等法第一世代。男性ばかりか、女性たちからも、冷ややかな目で、私を見ていた。

その視線と、仕事と、家事のバランスを取りながら、私は今も、働いている。

相変わらず、女を上にかせないための、ガラスの天井は、あちらこちらにあるけれど、私には上にいくよりも、やりたいことがある。

娘が子どもを抱えて働く頃には、女性も男性も、若者も老人も、弱いところは助け合い、誰もが肩の雪を払って、いたわり、支え合える職場を作りたい。

つくるのは、他の誰でもない。私たちの考え方と、言葉と、行動だと思っている。

もうダメだ、限界だと思った瞬間、娘の小さな手が、私の肩の雪を払ってくれた。娘の背中に手をあてると、温かかった。娘も必死に生きようとしている。これ以降、弱音を吐く事をやめた。様々な言葉が、この女性の人生の情景を彩っている。何てステキな言葉を、与えている方なんだろうと、私はとても感動した。言葉が人生を大きく左右していく良い例だろう。どんな言葉を与えるかで、個人の人生や会社組織、社会地域が大きく変化していくのだ。言葉の与え方で、調和も起これば、差別も起こる。肯定的な言葉を与え、肯定的な心持ちを作り、その土台の上に行動を実践するからこそ、成果結果に肯定的要素が与えられるのだ。

「人種洗淨」という言葉がある。「差別」と表現してもいいだろう。とても重いテーマである。ある種を淘汰するという概念だ。それがあっていいのかいけないのかは別にして、この「言葉」がもつ意味は深い。どの国や社会地域にも差別は存在する。ある一定の母数が集まると、何かの違いが浮き彫りになる。その違いが間違いになり、差別に繋がる。違いは間違いではなく、違いは違いでしかないという言葉を与えないと、不幸にも差別を生むのだ。差別する側も、される側も、決して心地良いものではない。にもかかわらず、人類は愚かであり、言葉の与え方をはき違え、差別を生んでしまう。それは共に不幸な事であるのに。都会の人と田舎の人、お金持ちと貧乏、一般庶民と上級階級者。肌の色が白か黒か黄色いか。出自の階層の違い。このコロナ禍の渦中においては、職業が、医療従事者かそうでないか。色んな違いがあるが、その違いを、ただ違うだけだと受け入れる言葉を与えるか、間違っているという言葉を与えるかで、共存か差別が生み出されるのだ。そんな言葉の与え方で、人生体験が変わってしまうという、52年前の1968年に実施された、面白い教育動画がある。キング牧師が暗殺された年だ。ある知人に教えてもらった動画である。非常に善き内容であるので、ご紹介したい。言葉の与え方次第で、差別を生み、融和を生むという良い実例だろう。Change your words. Change your world.言葉を変えるからこそ、世界が変わっていくのだ。言葉はあなたを守る守護神なのだ。どんな言葉で守られたいのかを、考えてみて欲しい。言葉であなたは出来ているのだから。そして、どうかこの学問が説いている、特に今月着目した相生循環の法則を、実践してみて頂きたい。言葉を変え、心の在り方を変え、行動実践を変えるからこそ、成果結果が変わり、存在力が変わっていくのだ。

進化論で有名なダーウィンは、次の言葉を残している。

『最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるのでもない。唯一生き残ることが出来るのは、変化できる者である。』

コロナ禍で急速な変転変化を求められるこの時代。特に今年は庚子年なので、考え過ぎずに行動変革をするというテーマを意識しながら、この時代を生き抜いていきたいものだ。